

6. 今後の取り組みに向けて

箕面市交通ネットワークの活性化に関して、各種調査や検討により明らかになった、北大阪急行線の延伸を考慮した公共交通のあり方、すなわち**中長期的施策**と、現在のバスサービスを中心とした公共交通の利用促進、すなわち**短期的施策**を整理すると以下ようになる。

■ 中長期的施策

● バス路線再編の検討

鉄道延伸を前提とした具体的な再編方針(案)の検討を行うときには、以下の視点を考慮する。

- ① 総合的な交通体系の視点
- ② まちづくりの視点
- ③ 環境負荷軽減の視点
- ④ 利用者の視点
- ⑤ 事業者の視点
- ⑥ 「公」と「民」とのパートナーシップの視点

● 交通結節点機能の検討

鉄道延伸を前提とした具体的な導入機能(案)の検討を行うときには、以下の視点を考慮する。

- ① 新しい箕面の顔となるよう、シンボリックな空間を設ける
- ② 交通拠点として乗り継ぎの利便性に配慮する
- ③ 千里中央との役割分担を明確にする
- ④ 商業施設との有機的連携により拠点性を高める
- ⑤ 隣接する市民広場との連携を図る

■ 短期的施策

● 継続的なモビリティ・マネジメント施策

箕面市や関係者が協力して、以下のプログラムに取り組む。

- ① 一定の地区を対象とする居住者モビリティ・マネジメント
- ② 市役所窓口での情報提供による転入者モビリティ・マネジメント
- ③ 小学校と連携しての学校モビリティ・マネジメント

● バス利用促進方策

箕面市や関係者が協力して、以下のプログラムに取り組む。

- ① ローカル輸送を中心としたバスネットワークの見直し
- ② 市民の要望・実現可能性を踏まえたバスサービスの改善

なお、「地域総合交通連携計画」を策定し、実証実験を行うに際しては、継続的なモビリティ・マネジメント施策を相互に実施することを検討する。

● 自転車と公共交通の連携方策

以下の課題に対して検討を進めていく。

- 駐輪場整備位置、整備台数、整備主体や管理主体、管理方法等の具体的内容
- 「(仮称)自転車走行空間ネットワーク化計画」との整合性

以上の通り、箕面市交通ネットワークの活性化に向けた具体的方策「プログラム」を取りまとめた。

今後は、高齢化の進展、環境問題の深刻化、中心市街地の衰退等の問題に対応するためにも、公共交通主体のまちづくりへの転換が望まれており、このプログラムを踏まえ、関係者が連携した積極的な取り組みを実施して公共交通の活性化を目指していくことが必要である。